

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立芙蓉中学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和6年4月18日(木)

■ 調査の対象学年

中学校3年生生徒

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数・数学)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
 - ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

児童(生徒)に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 学習に対する興味・関心、授業内容の理解度、 基本的生活習慣、家庭学習の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、 学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など

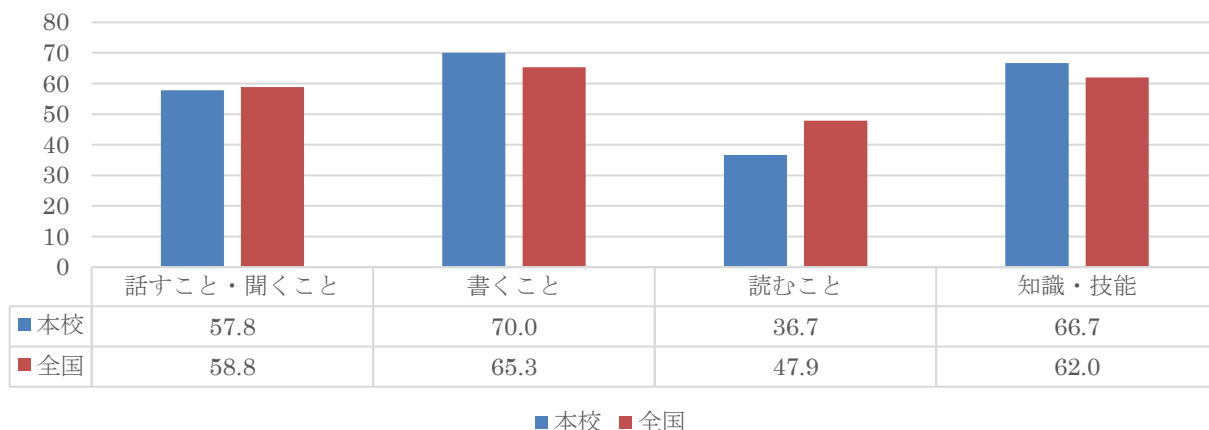
■ 調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

1 国 語

全国平均正答率との比較（中学校国語）



(1) 結 果

「書くこと」「知識・技能」は、全国平均正答率を上回っています。また、無解答率をみると、全問題で全国平均よりも低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査で、「知識・技能」の正答率が全国平均正答率を4.7ポイント上回りました。中でも、「言葉の特徴や使い方に関する事項」では、全国平均を大きく上回りました。普段から、漢字や言葉の学習などに取り組んでいる成果が表れていると考えられます。課題は、問題形式の「記述式」の正答率を上げることです。正答率は、全国平均正答率を下回っており、苦手になっている生徒が多くいます。生徒の記述力を高めることが、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の力を伸ばすことにつながります。単なる「知識」を問う問題ではなく、「思考力・判断力・表現力」を重視した問題が増えていく傾向にありますので、授業改善を通して、日々の授業で力を付けていくことが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

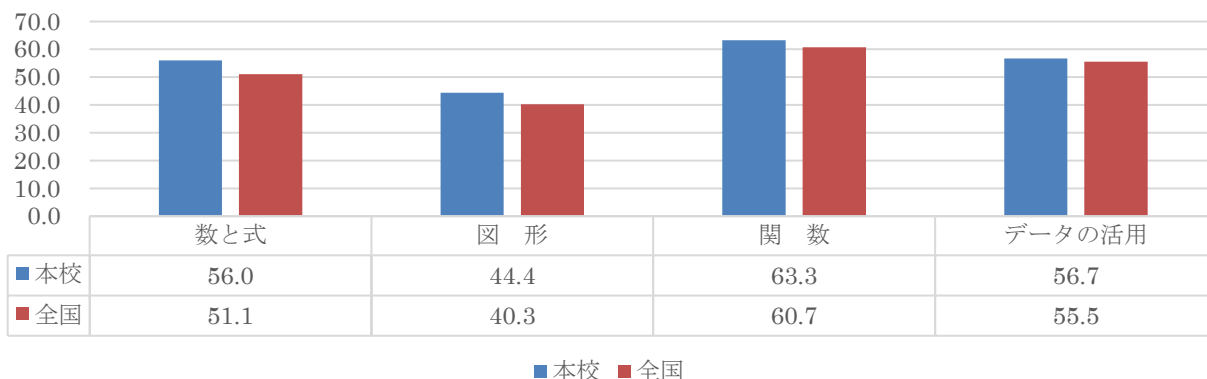
- 子どもが主体的に学べるように、授業の在り方を工夫すること（主体的・対話的で深い学び）で、子ども同士が話し合いながら、深く学んでいけるようにします。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながら書く機会を増やします。
- 漢字の読み書き、ことわざ等の学習に一層力を入れるとともに、辞書を活用させ、語彙力を増やします。
- インタビュー、案内や紹介など、日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。習得した国語の力を活用させる場面を増やすことで、表現力を向上させていきます。

【ご家庭では】

- 音読を大切にしていきましょう。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- 読書を大切にしていきましょう。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろんな本を読み、いろんな表現や用語にふれることで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。市立図書館や本屋に定期的に行くことも、お子さんの読書習慣をつける上でおすすめです。

2 数学

全国平均正答率との比較（中学校数学）



(1) 結 果

全ての領域で全国平均正答率を上回っています。無解答率については、ほとんどの問題で全国平均より低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「知識・技能」の問題の平均正答率が、全国平均正答率を上回りました。中でも、「数と式」の領域では、全国平均を大きく上回りました。日頃から、数式の立て方や計算の仕方について取り組んでいる成果が表れていると考えられます。課題は、「記述式」の問題形式の、「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる」問題の正答率が全国平均を下回っていました。

式から答えを出すだけではなく、式の意味を考えさせたり、式に合う問題を作らせたり、式から生活場面を想起させたりしながら、式、絵や図、具体的場面を行き来させることで、実感を伴った理解ができるようにすることが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 式から答えを出すだけではなく、式の意味を考えさせたり、式に合う問題を作らせたり、式から生活場面を想起させたりしながら、式、絵や図、具体的場面を行き来させるようにします。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、自分の考えを、式や言葉を使って、論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。
- 少人数指導、ノートチェック、プリント、ドリル、家庭への課題など、日々の指導の中で個々のつまづきを早期に見つけ、補充指導に努めます。

【ご家庭では】

- 授業等で分からなかったところは復習するように話をしています。疑問点をそのままにせず、周囲に質問し、理解できるまで、粘り強く取り組むことが大切になります。お子様の学習の様子を見守り、適宜アドバイスや励ましての言葉をかけください。
- 小テストや単元テスト、実力テスト、定期テストなど様々なテストを実施しています。基礎・基本の定着度をみるもの、活用力をみるものなど、目的に応じて様々です。ご家庭でも、授業の内容やテストでの得点状況などについて、話をされてみてください。

3 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

(1) 結 果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」と回答した生徒の割合。

《生活習慣・自己肯定感・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	81.3%	79.1%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	37.5%	34.9%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	56.3%	55.3%
自分にはよいところがあると思いますか。	50.0%	40.4%
将来の夢や目標を持っていますか。	56.3%	36.1%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	62.5%	68.6%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	87.5%	77.5%

就寝時刻が定まっていないのが気になります。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを大切にしていけることはとても重要です。家庭と学校で協力して、習慣化していきましょう。

規範意識については、肯定的な回答をした児童は全国平均よりも高い結果が出ています。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか。「3時間以上」	6.3%	9.2%
「2時間以上、3時間より少ない」	31.3%	22.5%
「1時間以上、2時間より少ない」	43.8%	32.6%
「30分以上、1時間より少ない」	12.5%	18.4%
「30分より少ない」	0%	10.4%
「全くしない」	6.3%	6.6%

家庭学習については全国平均とほぼ同等ですが、まだ1時間未満の児童が2割以上おり、中には全く家庭学習をしていない児童もいました。かなり個人差が見られるので、家庭学習の手引きをもとに家庭学習の意味を保護者や児童に伝えて家庭学習が習慣化するように指導をしていきます。また、自分の目標に向かって、計画を立てて家庭学習を行う習慣についても指導していきます。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 家庭学習が定着するように自主学習ノート（自学）を行うように指導しています。お手本になる自学ノートを掲示して効果的な学習の進め方について、参考になるようにしています。
- 放課後学習会を利用し、苦手教科の克服や卒業後の進路への意識付け等、学習への課題意識をもたせるようにしています。

【ご家庭では】

- お子さんと学校での出来事や将来について話す時間を増やしてください。
- ゲーム、テレビ、パソコンやインターネットなどの使い方について約束事を決めるなど、学習に集中できる環境を整えてください。
- 「芙蓉校9年間の家庭学習のすすめ」や「家庭学習の進め方」をご覧になり、学習時間のめやすや自主学習の説明を参考に、自分で計画的に学習できるように励ましてください。